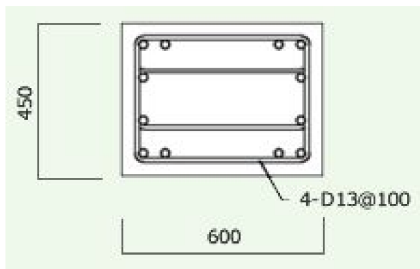
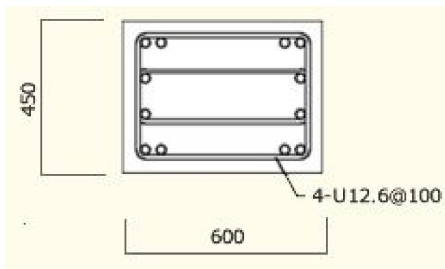


## JASO推奨品・推奨工法 推奨品認定番号No.013

# 『デザインUフレーム工法』 デザインフィット工法協会

鉄筋コンクリート造および鉄骨鉄筋コンクリート造建物の外側に鉄筋コンクリート造のフレームを接合する耐震補強工法です。特徴は、柱梁接合部に高強度のプレミックスポリマーセメントモルタル『クロスハードⅡ』を使用することで、柱梁接合部への主筋の必要定着長さが短くなり、高強度の主筋（SD390およびSD490）を使用することで普通コンクリート使用時に比べ、スレンダーなフレームでも耐力確保が可能です。

### 耐力の比較

耐力の比較		一般的なRC造 (Fc=21N/mm <sup>2</sup> )	デザインUフレーム工法
柱梁接合部		普通コンクリート Fc=21N/mm <sup>2</sup>	クロスハードⅡ Fc=60N/mm <sup>2</sup>
柱配筋 *1	引張主筋	D25 (SD345) [Tu=192KN]	D29 (SD490) [Tu=330KN] Tu : 鉄筋1本の引張抵抗力 (設計値)
	せん断補強筋	D13 (SD295A) [Tu=37KN]	U12.6 (SBPD1275) [Tu=159KN]
柱断面		引張主筋6-D25 	引張主筋6-D29 (SD490) 
柱1本の耐力 *2		Qu=550kN	Qu=950kN
耐力比		1.00	1.72

\*1 柱の主筋は、梁せいを700mmとしRC規準2010の通し配筋制限より設定。

\*2 柱の耐力は、柱軸力=0、柱内法高さ2.0m、柱脚柱頭が曲げ降伏するとして算定。

マンションにおいてノンブレース型で、増設フレーム補強型あるいは新設フレーム補強型を採用すれば、バルコニーの使用について影響を受ける範囲が抑えられ、区分所有者の合意形成が得やすいことが期待できます。

柱崩壊系（せん断破壊）の架構を梁崩壊系（曲げ降伏）の補強フレームで補強した架構の水平加力実験を行い、設計で期待している耐力と変形性能を有することを確認しており、一般財団法人日本建築総合試験所の建築技術性能証明書（GBRC性能証明第13-27号改5）を取得しています。

デザインフィット工法協会 <https://www.design-fit.jp/>  
宇部興産株式会社 <https://www.ube-ind.co.jp/>